



2023 年 露地・雨よけぶどう 病害虫防除暦

JA 中野市営農センター
JA 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
／	4 月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	特別散布 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ ラビキラー乳剤 500 mℓ	発芽前	2 回	300	ブドウトラカミキリ	① 注意！発芽後の散布は薬害が発生するので散布時期を厳守する ② 訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。
／	4 月下旬 (発芽直前)	① 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ パスポート顆粒水和剤 400 g	休眠期	1 回	300	晩腐病 黒とう病	① 晩腐病密度抑制のため、発芽前に散布完了する。
／	5 月初旬 カイガラムシ 特別対策	樹幹塗布 水 20 mℓ アルバリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで	塗布 1 回	1 樹当り 20-40 mℓ	コナカイガラムシ類 クビアカスカシバ	塗布方法 ① 水：アルバリン＝1：1 で調合 ② 目安：直径 10 cm 以上樹 20 mℓ、直径 20 cm 以上樹 40 mℓ ③ 主幹分岐部下 30～50 cm 程度粗皮削りし塗布する。
／	5 月上旬 展葉 3 枚頃	特別散布 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ トレノックスフロアブル 100 mℓ	60 日前	2 回	300	べと病 晩腐病 黒とう病	① クワコナカイガラムシ若齢幼虫対策：ダイアジノン水和剤 34 の 1,000 倍 (30 日前、2 回) を加用する。
／	5 月中旬 展葉 6 枚頃	② 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ トランスフォームフロアブル 50 mℓ オーソサイド水和剤 80 125 g	3 日前 30 日前	3 回 3 回	300	べと病・灰色かび病 晩腐病・黒とう病 カイガラムシ類	① 今回防除から概ね 10 日間隔の散布を目安とする。
／	5 月下旬 展葉 9 枚頃	③ 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ ドーシャスフロアブル 50 mℓ	60 日前	3 回	300	べと病 晩腐病 黒とう病	① ツマグロアオカスミカメ対策：コルト顆粒水和剤 3,000 倍 (前日、3 回) を加用する。
／	5 月下旬 展葉 9 枚頃	展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ ストマイ液剤 20 100 mℓ	満開予定日の 14 日前～ 開花始期	1 回	300	無種子化	① 注意！有核巨峰には飛散しないようにする。 ② 満開予定の 14 日前は概ね展葉 9 枚目頃に該当する。遅れのないように早め散布する。
／	6 月初旬 展葉 7～11 枚頃	展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ フラスター液剤 mℓ	新梢展開葉 7～11 枚時	2 回	150	着粒増加 新梢伸長抑制	① 品種により倍率が異なるため、散布前に必ず登録内容 (ラベル等) を確認する。 種なし巨峰：1,000 倍、ナガノパープル 500～800 倍 ② 弱樹勢や若木等は新梢伸長が弱る可能性があるため、散布を控える。
／	6 月上旬 開花直前	④ 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ バレード 15 フロアブル 50 mℓ オーソサイド水和剤 80 125 g トクチオン水和剤 125 g	7 日前 30 日前 45 日前	2 回 3 回 3 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病 黒とう病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 主幹害虫対策：主幹・主枝等にも薬液が到達するようにする。 ② アザミウマ類対策：花穂 (軸部) に薬液が到達するようにする。
／	前回から 10 日後 (落花直後)	⑤ コテツフロアブル 50 mℓ スイッチ顆粒水和剤 33 g ジマンダイセン水和剤 100 g	60 日前 30 日前 45 日前	2 回 2 回 2 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 チャノキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ コガネムシ類	① 注意：ジマンダイセン・ゾーベック等の成分がマンゼブを含む農薬は、年間の使用回数を 2 回までとする。 ② サビ防止対策：落花状況 (花冠の飛び等) を確認して散布する。 ③ 果紛溶脱防止：展着剤は今回から特別散布 (落花 30 日後) まで使用しない。
／	前回から 10 日後 (落花 10 日)	⑥ フェニックスフロアブル 25 mℓ アドマイヤー顆粒水和剤 10 g ゾーベックエニベル顆粒水和剤 133 g	14 日前 21 日前 45 日前	2 回 2 回 2 回	400	べと病・晩腐病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類 スカシバ類	① 注意：ジマンダイセン・ゾーベック等の成分がマンゼブを含む農薬は、年間の使用回数を 2 回までとする。 ② 農薬汚れ対策代替：ゾーベックエニベル顆粒水和剤に代えて、ホライズンドライフロアブル 2,500 倍 (21 日前、3 回) を使用する。
／	前回から 10 日後 (落花 20 日)	⑦ レーバスフロアブル 50 mℓ アミスター10 フロアブル 100 mℓ ディアナWDG 10 g	7 日前 30 日前 前日	3 回 3 回 2 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 アザミウマ類 クビアカスカシバ	① 代替：レーバスフロアブルに代えて、ザンプロ DM フロアブル 2,000 倍 (30 日前、2 回) でもよい。ただし、農薬汚れ (果紛溶脱) に注意する。
／	前回から 10 日後 (落花 30 日)	特別散布 ライメイフロアブル 25 mℓ オンリーワンフロアブル 50 mℓ アーデントフロアブル 50 mℓ	14 日前 前日 前日	3 回 3 回 4 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 ハダニ類 アザミウマ類	① 袋かけ直前の散布とする。 ② 晩腐病強化対策：オンリーワンフロアブルに代えて、ミギワ 20 フロアブル 2,000 倍 (前日、3 回) を使用する。
／	7 月下旬 (袋掛直後)	⑧ 展着剤 (アビオン-E) 50 mℓ ムッシュボルドーDF 200 g アルバリン顆粒水溶剤 50 g	— 前日	— 3 回	400	べと病・さび病 チャノキイロアザミウマ ブドウトラカミキリ カメムシ類 コナカイガラムシ類	① ハダニ類 対策：コロマイト水和剤 2,000 倍 (7 日前、2 回) を加用する。 ② クビアカスカシバ対策：パダン SG 水溶剤 1,500 倍 (21 日前、5 回) を加用する。 ③ ムッシュボルドーを使用する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン100 倍を加用する。
／	8 月上旬 (前回から 10 日後)	⑨ 展着剤 (アビオン-E) 50 mℓ IC ボルドー66D 2.5 kg テルスター水和剤 100 g	— 14 日前	— 1 回	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病 チャノキイロアザミウマ	① コガネムシ類対策：テルスター水和剤に代えて、イカズチWDG1,500 倍 (21 日前、5 回) を使用する。ただし、早生種は収穫前規制に注意する。
／	8 月中旬 (前回から 10 日後)	⑩ 展着剤 (アビオン-E) 50 mℓ IC ボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① IC ボルドー代替：ムッシュボルドーDF500 倍、コサイド3000 の 2,000 倍を使用してもよい。ただし、ムッシュボルドーやコサイド3000 を使用する場合は、高温時や降雨後の散布で薬害を生じる恐れがあるため、クレフノン 100 倍を加用する。
／	8 月下旬 (前回から 10 日後)	⑪ 展着剤 (アビオン-E) 50 mℓ IC ボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① IC ボルドー代替：前項同様 ② 収穫中のナガノパープル等に飛散しないように注意する。
／	収穫終了後	特別散布 展着剤 (アビオン-E) 50 mℓ IC ボルドー66D 2.5 kg	—	—	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① IC ボルドー代替：前項同様

◆ 安全・安心の農産物生産のために使用基準を厳守しましょう。

当防除暦の複製・コピーを禁止します。

◆ 混用例：展着剤 ⇒ 液剤⇒ 乳剤⇒ 顆粒水溶剤⇒ 水溶剤⇒ フロアブル⇒ ドライフロアブル (DF) ⇒ 顆粒水和剤 (WDG) ⇒ 水和剤